令和４年８月２２日

宮城県知事　村井　嘉浩　殿

地方独立行政法人宮城県立病院機構評価委員会
委員長　冨永　悌二

業務実績及び財務諸表について（答申）

令和４年７月４日付け医療第２５８号で諮問のありましたこのことについては，下記のとおりです。

記

１　地方独立行政法人宮城県立病院機構の令和３年度業務実績及び暫定評価期間（令和元年度～令和３年度）業務実績

別紙のとおり

２　地方独立行政法人宮城県立病院機構の令和３年度財務諸表

意見なし

『項目別評価への意見』（令和3年度業務実績及び暫定評価期間業務実績に係る各委員評価集計）

別紙1

令和3年度業務実績に係る意見等

評価項目	法人自己評価 精神医療C	法人自己評価 がんC	法人自己評価 本部	法人自己評価 総合	委員	委員評価 精神医療C	委員評価 がんC	委員評価 本部	委員評価 総合	委員評価にあたっての意見・指摘等
Ⅰ 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置										
1 質の高い医療の提供					石岡委員					
					小野寺委員					・2病院ともに専門領域に特化した診療機能を担いながら，高度・専門医療の提供に努めた。
					郷内委員					
					佐藤（和）委員					
					佐藤（裕）委員					
					菅原委員					・新型コロナの影響が継続する中でも，2病院の専門診療の維持に努力し，宮城県民へ質の高い医療提供を行ってきたと考える。
					富田委員					
					冨永委員					・がんセンターでは，コロナ感染蔓延下であっても，ロボット手術を含めて手術件数が増加しており，また他医療機関で扱いの少ない希少がんを治療しており，政策医療，質の高い医療という観点では評価できると考える。精神医療センターでは，県内唯一の救急指定病院としての役割を果たしていると考えられる。
（1）政策医療，高度・専門医療の確実な提供	B	A			石岡委員	B	B			【精神医療センター】 ・外来，入院患者数は目標に達したが，児童思春期延入院及び外来患者数は目標を下回った。 【がんセンター】 ・入院・外来患者数，リニアック件数は目標に達せず，手術件数，化学療法室使用件数，緩和ケアチーム対応件数，科研費採択件数と金額，外部資金獲得は目標上回る。
					小野寺委員	B	A			【精神医療センター】 ・県内唯一の「精神科救急入院料算定病棟（スーパー救急）」の効率的な運用を図るため，センター内でベッド調整等を目的とした定期的なカンファレンスを行い，民間病院では対応困難な患者の受入に努めた。 【がんセンター】 ・がん治療において，放射線治療や化学療法などの集学的治療の促進に努めた。 ・緩和ケア分野におけるドクター増員に伴い，がん患者向けの療養環境の一層の向上に努めた。
					郷内委員	B	A			【精神医療センター】 ・精神科救急医療，地域移行・地域定着支援など，おおむね目標値を達成できた。 ・宮城県内における措置入院の半数以上を受け入れている。 ・精神科救急病棟患者数は目標を達成した。 【がんセンター】 ・ガン幹細胞や　がんゲノム医療センター機能など　先進的な医療体制を整備している。 ・緩和ケアチームでの対応件数が増えた。 ・科研費採択は目標を大幅に上回った。 ・手術・放射線治療・化学療法とも集学的医療を展開している。
					佐藤（和）委員	B	A			
					佐藤（裕）委員	B	A			【精神医療センター】 ・コロナ禍の下において，入院患者，外来患者ともに目標を達成した。 ・救急医療，児童思春期医療についてもおおむね順調である。 ・措置入院の受け入れ状況からしても，本県精神科の基幹病院として役割を果たしている，と評価できる。 【がんセンター】 ・入院患者数の減少傾向の原因が気になる。コロナによる受診控えということだけで説明できるのだろうか。 ・手術件数は増加し，特に高性能ロボット手術が大幅に増加している。 ・放射線治療，特にトモセラピーの利用件数が減少しているのは残念。有効に活用してほしい。
					菅原委員	B	B			【がんセンター】 研究所を有することで，高度医療に貢献する研究を活発に行い目標を上回っているが，入院患者数，外来患者数は，わずかであるが目標に達しておらず，コロナ禍においても，専門的診療の維持継続が望まれる。
					富田委員	B	A			【精神医療センター】 ・自己評価通り目標を達成。今後，高度医療で連携大学院の強みを活かすことが望ましい。 【がんセンター】 ・自己評価通り目標を上回る。
					冨永委員	B	A			
（2）医療機器，施設の計画的な更新・整備	B	B			石岡委員	C	B			【精神医療センター】 ・超音波診断装置等の機器更新を行った。病院新築に関する取組は不明確。 【がんセンター】 ・生体モニター他を更新した。
					小野寺委員	B	B			【精神医療センター】 ・良質な医療提供や医療水準の向上を図るための設備更新については，収支バランスの検証を行いながら，計画的に設備の入れ替えを行った。 【がんセンター】 ・高度・専門医療を担う病院として，良質な医療提供や医療水準の向上を図るための設備更新については，収支バランスを考慮し，計画的に設備の入れ替えを行った。
					郷内委員	B	B			【精神医療センター】 ・計画に沿った医療機器，施設の更新・整備が行われた。 【がんセンター】 ・経営健全化の収支バランスを考慮のうえで，医療機器や施設の整備を行った。
					佐藤（和）委員	B	B			
					佐藤（裕）委員	B	B			【精神医療センター】 ・建物の老朽化による大規模修繕の必要性は理解できるが，移転を予定されているので，その金額規模を知りたい。 【がんセンター】 ・医療機器の更新が計画的に行われた。
					菅原委員	B	B			

暫定評価期間業務実績に係る意見等

評価項目	R元評価結果 精神医療C	R元 がんC	R元 本部	R元 総合	R2評価結果 精神医療C	R2 がんC	R2 本部	R2 総合	法人自己評価 精神医療C	法人自己評価 がんC	法人自己評価 本部	法人自己評価 総合	委員	委員評価 精神医療C	委員評価 がんC	委員評価 本部	委員評価 総合	委員評価にあたっての意見・指摘等
Ⅰ 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置																		
1 質の高い医療の提供													石岡委員					
													小野寺委員					・2病院ともに専門領域に特化した診療機能を担いながら，高度・専門医療の提供に努めた。
													郷内委員					
													佐藤（和）委員					
													佐藤（裕）委員					・コロナ禍の下，コロナ対応をしながら両病院共に頑張ったと思う。 ・但し，合併・移転の問題が患者や住民に不安感を与えた感がある。政治の責任において，県民の納得できる方向性を示してほしい。
													菅原委員					・コロナ禍において宮城県の新型コロナ対策に協力しながらも，2病院の専門性を維持し，専門的な医療を宮城県民に提供されてきたと考える。
													富田委員					
													冨永委員					
（1）政策医療，高度・専門医療の確実な提供	B	A			B	A			B	A			石岡委員	B	A			【精神医療センター】 ・R1: 入院および外来患者延べ数は減少傾向で目標値に達せず。しかし，精神救急医療が大幅に伸び高度な医療を提供した。 ・R2:精神科救急医療の提供に関して，適用患者割合やデイケア実施件数など複数項目で目標値を下回った。平均在院日数など一部の項目は目標を達成した。 ・R3:精神科救急医療の提供に関して，適用患者割合やデイケア実施件数など複数項目で目標値を下回った。平均在院日数など一部の項目は目標を達成した。 ・3年間を通すと，目標に達しない項目があったがおおむね目標を達したといえる。 【がんセンター】 ・R1：がんゲノム医療提供体制の整備，ダヴィンチ手術の拡充など政策医療を含む高度医療を着実に実践した。患者数もおおむね目標に達した。 ・R2:おおむね目標を達成した。化学療法室での実施件数は目標を大きく上回った。がんゲノム医療への対応は浸食が見られた。検診件数は目標を上回った。緩和ケア研修会は目標を達成した。一般向けセミナーは開催されなかった（ウェブ開催は可能ではなかったか）。 ・R3:入院・外来患者数，リニアック件数は目標に達せず，手術件数，化学療法室使用件数，緩和ケアチーム対応件数，科研費採択件数と金額，外部資金獲得は目標上回る。 ・3年間を通すと，目標に達しない項目があったがおおむね目標を上回る。
													小野寺委員	B	A			【精神医療センター】 ・県内唯一の「精神科救急入院料算定病棟（スーパー救急）」の効率的な運用を図るため，センター内でベッド調整等を目的とした定期的なカンファレンスを行い，民間病院では対応困難な患者の受入に努めた。 【がんセンター】 ・がん治療において，放射線治療や化学療法などの集学的治療の促進に努めた。 ・緩和ケア分野におけるドクター増員等の体制強化を図り，いずれの事業年度においても目標対応件数を達成した。
													郷内委員	B	A			【精神医療センター】 ・県内唯一の「精神科救急入院料算定病棟」としての効果的な運用がなされた。 ・宮城県内における措置入院の半数以上を受け入れた。 ・「児童思春期医療体制」を充実させて，学校や児童相談所，地域の拠点施設との連携を強化した。 【がんセンター】 ・低侵襲外科センターの運用，手術支援ロボットの活用などで外科の機能を向上させた。 ・がんゲノム医療の先進部門を強力に推進した。 ・緩和医療において緩和ケアチームの対応が伸びた。 ・治験・臨床研究などを積極的に推進して新しい治療の開拓に貢献した。
													佐藤（和）委員	B	A			
													佐藤（裕）委員	B	A			
													菅原委員	B	A			
													富田委員	B	A			【精神医療センター】 ・自己評価通り目標を達成。今後，高度医療で連携大学院の強みを活かすことが望ましい。 【がんセンター】 ・自己評価通り目標を上回る。
													冨永委員	B	A			
（2）医療機器，施設の計画的な更新・整備	B	A			B	B			B	B			石岡委員	C	B			【精神医療センター】 ・R1:多項目自動血球分析装置など必須の検査機器を更新できた。 ・R2:老朽化した病院の建替前に，大規模な施設や設備の修繕を行った。早期に計画的な立て替え事業を推進する必要がある。 ・R3:超音波診断装置等の機器更新を行った。病院新築に関する取組は不明確。 ・3年間を通すと，病院新築の計画が明確化に至らず。 【がんセンター】 ・R1:3D内視鏡手術システムの導入など，複数の機器の導入を実現できた。 ・R3:生体モニター等を更新した。 ・3年間を通じておおむね目標を達成した。
													小野寺委員	B	B			【精神医療センター】 ・良質な医療提供や医療水準の向上を図るための設備更新については，収支バランスの検証を行いながら，計画的に設備の入れ替えを行った。 【がんセンター】 ・高度・専門医療を担う病院として，良質な医療提供や医療水準の向上を図るための設備更新については，収支バランスを考慮し，計画的に設備の入れ替えを行った。
													郷内委員	B	B			【精神医療センター】 ・計画に沿って医療機器や施設の整備・更新を進めた。一方で病院の移転計画が進まず老朽化した施設の大規模修繕で病院機能の停滞が危惧される。 【がんセンター】 ・経営健全化を考慮しながら計画的な医療機器の更新・導入や施設の整備を実施した。
													佐藤（和）委員	B	B			
													佐藤（裕）委員	B	B			【がんセンター】 ・計画的な更新・整備が進み，集学的治療のもととなった。
													菅原委員	B	B			

評価項目	令和3年度業務実績に係る意見等										暫定評価期間業務実績に係る意見等																
	法人自己評価				委員評価						R元評価結果				R2評価結果				法人自己評価				委員評価				
	精神医療C	がんC	本部	総合		精神医療C	がんC	本部	総合	委員評価にあたっての意見・指摘等	精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合		精神医療C	がんC	本部	総合	委員評価にあたっての意見・指摘等
					富田委員	C	B			【精神医療センター】 ・老朽化が顕著な中，病院建て替えの目途が見えない現状で，目標達成と評価すべきか疑問。 【がんセンター】 ・自己評価通り目標を達成。														富田委員	C	B			【精神医療センター】 ・老朽化が顕著な中，病院建て替えの目途が見えない現状で，目標達成と評価すべきか疑問。 【がんセンター】 ・自己評価通り目標を達成。
					冨永委員	B	B																冨永委員	B	B			
（3） 地域医療への貢献	B	B			石岡委員	B	B			【精神医療センター】 ・紹介率（歯科除く）は目標に達したが，逆紹介率は僅かに目標に届かなかった。 【がんセンター】 ・紹介率（歯科除く）は目標に達したが，逆紹介率は目標に届かなかった。	B	A			B	A			B	A			石岡委員	B	B			【精神医療センター】 ・R1:紹介率，逆紹介率はおおむね目標通りであったが，年々，率が低下する傾向にある。 ・R2:目標をおおむね達成した。 ・R3:紹介率（歯科除く）は目標に達したが，逆紹介率は僅かに目標に届かなかった。 3年間を通しておおむね目標に達した。 【がんセンター】 ・R1:紹介率は目標を上回った。公共放送や地域連携の会合開催等で広報に努めた成果ではないか。 ・R2:紹介率，逆紹介率ともに目標を上回った。 ・R3:紹介率（歯科除く）は目標に達したが，逆紹介率は目標に届かなかった。 ・3年間を通しておおむね目標に達した。
					小野寺委員	B	B			【精神医療センター】 ・地域医療連携室を中心に他の医療機関との連携を強化しながら入院受入等を図るとともに，他の医療機関に対する技術的支援も並行して実施しながら，退院支援に繋げる地域連携クリティカルパスに準じた対応に努めた。 【がんセンター】 ・新規に開業した地域の医療機関等に対して，病院との連携を深める目的で登録医制度を積極的に推進し，登録数の積み上げを図った。														小野寺委員	B	A			【精神医療センター】 ・地域医療連携室を中心に他の医療機関との連携を強化し，受診・入院の受入等を図るとともに，多職種と共同で医療機関への技術支援を実施しながら，退院支援に繋げる地域連携クリティカルパスに準じた対応に努めた。 【がんセンター】 ・新規に開業した地域の医療機関等に対して，病院との連携を深める目的で登録医制度を積極的に推進し，登録数の積み上げを図った。 ・患者の紹介率・逆紹介率はいずれの事業年度においてもおおむね目標を達成する等，積極的な地域連携への取組が見受けられた。
					郷内委員	B	B			【精神医療センター】 ・患者の紹介率，逆紹介率はほぼ目標を達成した。 【がんセンター】 ・紹介率は目標を上回ったが，逆紹介率は目標を下回った。 ・病病連携，病診連携が図られた。												郷内委員	B	A			【精神医療センター】 ・地域移行の推進をはかり，逆紹介を伴わない自宅やグループホームへの移行が増加したり，重症患者は退院後も当センターの外来を受診するなどして，逆紹介率の目標達成困難な状況にある。 ・平均在院日数の短縮など，地域移行の推進，地域定着支援が図られた。 【がんセンター】 ・「がん対策推進基本法」のもとで宮城県がん診療連携拠点病院として，県内の医療機関との連携や難治がん，稀少がんなどの分野の民間では取り組めない領域のがん治療に大きな役割を果たしてきた。特に県南地域の医療の基幹として地域医療をトータルで支えてきた。
					佐藤（和）委員	B	A																佐藤（和）委員	B	A			
					佐藤（裕）委員	B	B			【精神医療センター】 ・逆紹介率が低下した要因とされる自宅等への退院増加のエビデンスがほしい。 ・精神医療センターの紹介率・逆紹介率の年度計画の目標値は中期計画より下げた数字となっている。 【がんセンター】 ・紹介率は目標値を上回ったが，逆紹介率は下回っている。 ・がんセンターの紹介率・逆紹介率の年度計画の目標値は中期計画の数字を採用している。														佐藤（裕）委員	B	A			【精神医療センター】 ・コロナ禍の下で良く頑張ったと思う。 【がんセンター】 ・コロナ禍の下で良く頑張ったと思う。
					菅原委員	B	B																菅原委員	B	A			
					富田委員	B	B			【精神医療センター】 ・自己評価通り目標を達成。逆紹介率の目標設定を今後どうするのか。クロザピン処方等，重症者を継続診療する医療機関を増やすことが課題か。 【がんセンター】 ・自己評価通り目標を達成。												富田委員	B	A			【精神医療センター】 ・自己評価通り目標を達成。 【がんセンター】 ・自己評価通り目標を上回る
					冨永委員	B	B			【がんセンター】 ・地域連携クリティカルパスの運用は今後の課題である。													冨永委員	B	B			
（4） 医療に関する調査・研究と情報の発信	B	B			石岡委員	C	C			【精神医療センター】 ・新型コロナ2年目は，全国的に見て学術集会等の参加者は改善している。 【がんセンター】 ・セミナーや研修会の開催が少ない（コロナ2年目は各医療機関で開催状況はむしろ良くなっている）。	A	B			B	B			B	B			石岡委員	C	C			【精神医療センター】 ・R1:第27回日本精神科救急学会学術集会を開催したことは評価できる。 ・R2:倫理委員会にて審査を受けた研究件数が目標を下回った。学会の発表件数が少なかった（COVID-19下では全国的にオンラインでの学会発表数は増加している）。 ・R3:新型コロナ2年目は，全国的に見て学術集会等の参加者は改善している。 ・3年間を通じて，ポストコロナ時代に対応した積極的な対応が必要。 【がんセンター】 ・R1:院内がん登録のための調査や一般向け及び学会等での情報発信など，例年通りにに行えた。 ・R2:おおむね目標を達成した。医療機関に向けた研修会はほとんど開催されなかったが，ウェブで開催可能だったはず。 ・R3:セミナー研修会の開催が少なかった。 ・3年間を通じてより改善が必要。
					小野寺委員	B	B			【精神医療センター】 ・東北大学大学院医学系研究科と連携し，研究・診療に従事する専門的人材育成に取り組んだ。 【がんセンター】 ・ホームページを適宜更新するとともに，総合がん検診や診療情報，職員募集情報及び各部門紹介について最新情報の発信に努めた。												小野寺委員	B	B			【精神医療センター】 ・東北大学大学院医学系研究科と連携し，研究・診療に従事する専門的人材育成に取り組んだ。 【がんセンター】 ・総合がん検診や診療情報，職員募集情報及び各部門紹介等にかかる発信については，新型コロナウィルス感染症対策（オンデマンド方式等）を徹底しながら，積極的に行った。
					郷内委員	B	B			【精神医療センター】 ・県民・患者向けに　医療相談会を開催した。 【がんセンター】 ・がん登録情報の活用支援のモデル事業を推進した。 ・日本癌学会へ研究論文が4件掲載された。 ・治験，臨床試験件数の増加，科研費での研究，科研費以外の外部資金の獲得，AMEDの研究費獲得の増加。												郷内委員	B	B			【精神医療センター】 ・臨床統計データの蓄積と活用によって，臨床研究と診療の両面で成果を出した。 ・東北大学大学院医学系研究科と連携して研究・診療に従事する専門的人材育成に取り組んだ。 【がんセンター】 ・厚労省より承認されている「院内がん登録」により，また宮城県より委託された「宮城県がん登録室」において「がん登録推進法」に沿ったがん登録事業の県内の全域を網羅している。 ・さらに，治験・臨床研究の受託件数，金額とも向上してきて，がん治療の最前線の領域を研究し，発信している。
					佐藤（和）委員	B	B																佐藤（和）委員	B	B			
					佐藤（裕）委員	B	B			【精神医療センター】 ・医療相談会は目標値を大きく超えて実施されたが，学会や専門誌へのアクセスはやや低調だった。 【がんセンター】 ・学会参加数は目標値を上回ったが，学会発表数，専門誌寄稿件数は下回った。												佐藤（裕）委員	B	B			
					菅原委員	B	B																菅原委員	B	B			
					富田委員	B	B			【精神医療センター】 ・自己評価通り目標を達成。相談会，学会発表等の具体的件数を明示することが望ましい。 ・今後，調査研究，学会発表等で連携大学院の強みを活かすことが望ましい。 【がんセンター】 ・自己評価通り目標を達成。												富田委員	B	B			【精神医療センター】 ・自己評価通り目標を達成。今後，調査研究，学会発表等で連携大学院の強みを活かすことが望ましい。 【がんセンター】 ・自己評価通り目標を達成。
					冨永委員	B	B																冨永委員	B	B			
					石岡委員	B	A	B	A	【がんセンター】 ・目標以上に安心・安全な医療の提供に関する取組が行えた。													石岡委員	B	B	B	B	
					小野寺委員	A	A	B	A	【精神医療センター】 ・医療安全や院内感染症対策に関する委員会や研修会を開催する等，積極的な医療安全対策を講じた。 【がんセンター】 ・医療安全や院内感染症対策に関する委員会や研修会を定期的に開催し，特に研修会に関しては目標を大きく上回る年29回開催する等，積極的な医療安全対策に努めた。 【本部】 ・各病院のインシデント等の発生状況を取りまとめ，情報共有に努めていたほか，医療安全管理指針に基づいた情報開示を徹底した。														小野寺委員	B	A	B	B	【精神医療センター】 ・医療安全や院内感染症対策に関する委員会や研修会を開催する等，積極的な医療安全対策を講じた。 【がんセンター】 ・医療安全や院内感染症対策に関する委員会や研修会を開催する等，積極的な医療安全対策を講じた。 【本部】 ・各病院のインシデント等の発生状況を取りまとめ，情報共有に努めたほか，医療安全管理指針に基づいた情報開示を徹底した。

評価項目	令和3年度業務実績に係る意見等										暫定評価期間業務実績に係る意見等																			
	法人自己評価				委員評価					委員評価にあたっての意見・指摘等	R元評価結果				R2評価結果				法人自己評価				委員評価					委員評価にあたっての意見・指摘等
	精神医療C	がんC	本部	総合		精神医療C	がんC	本部	総合		精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合		精神医療C	がんC	本部	総合	
2 安全・安心な医療の提供	A	A	B	A	郷内委員	A	A	B	A	【精神医療センター】 ・医療安全委員会開催件数が100%になった。 【がんセンター】 ・医療安全委員会開催件数が100%になった。 【本部】 ・個人情報保護や情報セキュリティ研修の目標を達成した。	B	B	B	B	B	A	B	B	B	A	B	B	郷内委員	B	A	B	B	【精神医療センター】 ・医療安全カンファレンスの開催や医療従事者への研修など，医療安全対策を講じている。 ・服薬指導のための個別のケースカンファレンスに参加している。 【がんセンター】 ・医療安全研修の開催及びカンファレンスの開催を行った。 ・医薬品の安全使用に向けた患者用パンフレット460種類を整備して，病棟薬剤師や外来担当薬剤師が患者指導しやすい環境を整備した。 【本部】 ・各病院のインシデント発生状況などをホームページに公開した。
					佐藤（和）委員	A	A	B	A														佐藤（和）委員	A	A	B	A	
					佐藤（裕）委員	B	A	A	A	【精神医療センター】 ・様々な取組を実施した。開示されたインシデントレポートも大きな問題はなかった。 ・コロナへの院内感染を防ぐことができたことは評価できる。 【がんセンター】 ・様々な取組を実施した。元々体調のすぐれない患者が多いので転倒・転落事故には更に留意すべきである。。 ・コロナ患者を受け入れた中で，コロナの院内感染を防ぐことができたことは高く評価できる。 【本部】 ・コロナの感染防止には本部の役割も大きかったと思う。														佐藤（裕）委員	B	A	B	B	【精神医療センター】 ・コロナの感染クラスターを発生させなかった。 【がんセンター】 ・コロナの感染クラスターを発生させなかった。
					菅原委員	A	A	B	A														菅原委員	B	A	B	B	
					富田委員	A	A	B	A	【精神医療センター】 ・自己評価通り目標を上回る。 【がんセンター】 ・自己評価通り目標を上回る。 【本部】 ・自己評価通り目標を達成。													富田委員	B	A	B	B	【精神医療センター】 ・自己評価通り目標を達成。 【がんセンター】 ・自己評価通り目標を上回る。 【本部】 ・自己評価通り目標を達成。
					冨永委員	A	A	B	A														冨永委員	B	A	B	B	
3 患者や家族の視点に立った医療の提供	B	B	B	B	石岡委員	A	A	B	A	【精神医療センター】 ・目標以上に患者や家族の視点に立った医療の提供が行えた。 【がんセンター】 ・目標以上に患者や家族の視点に立った医療の提供が行えた。	B	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	石岡委員	B	A	B	B	【精神医療センター】 ・R2:相談窓口への相談件数が伸びた。外来栄養指導件数が目標を下回った。 ・3年間を通じておおむね目標通り。 【がんセンター】 ・R1:入院及び外来の栄養指導件数（年々増加で目標大きく上回る），高い水準の患者相談窓口件数（ほぼ目標通り），駐車場造設，WiFiサービスなど高く評価できる。 ・R2：相談窓口への相談件数が伸びた。待ち時間の短縮が図られた。入退院支援加算研修やその額が伸びた。駐車場を造設した。入院及び外来の栄養指導件数が大幅に伸びた。 ・3年間を通じ，目標をやや上回る。
					小野寺委員	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・精神疾患患者に対する行動制限を行う場合には，本人とその家族に対してより丁寧な説明を心掛けた。 ・外食産業とのタイアップで外食チェーン店メニューを定期的に導入する等，患者満足度向上を意識した食事提供に取り組んだ。 【がんセンター】 ・待ち時間調査を実施し，実態把握に努めるとともに，予定時刻表示を行うなど，病院利用者の利便性向上に努めた。 ・駐車場の白線の引き直しや構内の案内板を更新する等，患者や家族の利便性向上に努めた。 【本部】 ・新任職員研修において接遇研修を実施し，新任職員に必要な接遇スキルの習得に努めた。														小野寺委員	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・精神疾患患者に対する行動制限を行う場合には，本人とその家族に対してより丁寧な説明を心掛けた。 ・外食産業とのタイアップで外食チェーン店メニューを定期的に導入する等，患者満足度向上を意識した食事提供に取り組んだ。 【がんセンター】 ・待ち時間調査を実施し，実態把握に努めるとともに，予定時刻表示を行うなど，病院利用者の利便性向上に努めた。 【本部】 ・新任職員研修や中堅職員研修等を階層別に実施し，各職員のスキルの習得・向上に努めた。
					郷内委員	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・特に行動制限を伴う患者や家族により丁寧な説明に務めたこと。 ・施設の老朽化については，大規模改修・修繕で凌いでいる状況の改善を望みます。 ・食事提供に様々な工夫が見られた。 【がんセンター】 ・「患者カウンセリング」の導入，セカンドオピニオンの積極的活用など，行った。 ・患者の権利確保への検討を行ったこと。 ・がん相談支援センターの活動が継続された。 ・終末期の患者への食事の工夫が見られた。														郷内委員	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・患者や家族に対する治療目的や，方法などの丁寧な説明を実施した。 ・病院利用者の利便性・快適性については　建物の老朽化による建て替えの停滞などから，不便をしいていることは否めないのではないか？療養の環境の整備は，停滞してほしくない。 【がんセンター】 ・適切なインフォームド・コンセントの取得に努めていること。「がん患者カウンセリング」を導入して，医師及び認定遺伝子カウンセラーの有償カウンセリングを実施している。
					佐藤（和）委員	B	B	B	B														佐藤（和）委員	B	B	B	B	
					佐藤（裕）委員	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・着実に取り組んだ。 【がんセンター】 ・着実に取り組んだ。 【本部】 ・着実に取り組んだ。													佐藤（裕）委員	B	B	B	B	【がんセンター】 ・駐車場の増設が実現したことは好ましい。
					菅原委員	B	B	B	B														菅原委員	B	B	B	B	
					富田委員	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・自己評価通り目標を達成。 【がんセンター】 ・自己評価通り目標を達成。 【本部】 ・自己評価通り目標を達成。													富田委員	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・自己評価通り目標を達成。 【がんセンター】 ・自己評価通り目標を達成。 【本部】 ・自己評価通り目標を達成。
					冨永委員	B	B	B	B														冨永委員	B	B	B	B	
4 人材の確保と育成	B	B	B	B	石岡委員	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・医療系学生の受入は目標を上回った。 【がんセンター】 ・医療系の学生の受入が目標を下回った。	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	石岡委員	B	B	B	B	・人材確保（採用）に関しては退職者数との関係があるので，目標値の実現だけで評価が難しい。 ・人材養成に関しては医療系学生の受入増加など評価できる。 ・認定・専門資格者の数は，全国がんセンター協議会の病院との比較など評価方法を工夫する必要がある。 【精神医療センター】 ・R2:おおむね目標を達成したが，医師の学会参加が少なかった。 【がんセンター】 ・R2:研究医の受入件数が目標より少なかった。医師の学会参加は目標より大幅に多かった。認定看護師に1人合格した。
					小野寺委員	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・看護師の資質向上に向けて，e-ラーニングの積極的な受講を促し，精神科の専門性を高めるための教育体系の充実を図った。 【がんセンター】 ・各種研修会の参加や外部研修機関への研修派遣，WEBを利用した学会等への参加を通じて，資質向上に向けた取組を行った。 【本部】 ・看護師採用試験の応募者確保対策として，ホームページ更新や民間の就職情報サイトへの登録，オンライン合同就職説明会への参加など積極的に広報活動を行った。														小野寺委員	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・看護師の資質向上に向けて，e-ラーニングの積極的な受講を促し，精神科の専門性を高めるための教育体系の充実を図った。 【がんセンター】 ・各種研修会の参加や外部研修機関への研修派遣，WEBを利用した学会等への参加を通じて，資質向上に向けた取組を行った。 【本部】 ・看護師採用試験の応募者確保対策として，ホームページ更新や民間の就職情報サイトへの登録，オンライン合同就職説明会への参加など積極的に広報活動を行った。
					郷内委員	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・医師の採用は1人にとどまったが，研修基幹施設として6病院から34人の臨床研修医の受入を行った。 ・学会への参加状況は目標を下回った。 【がんセンター】 ・資格保有者数を増やし，医療体制の向上に努めた。 ・医療系学生への教育の人数を増やし，臨床教育や研修の向上に努めた。 【本部】 ・看護師の確保に努めて，医療体制を確保した。 ・事務職員の資質向上に向けて施策を実施した。														郷内委員	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・協力型臨床研修病院として仙台市立病院等6病院から34人の臨床研修医の受け入れを行った。 【がんセンター】 ・医師の採用11人，後期研修医の採用10人など　医師確保に努力した。 【本部】 ・人材確保に苦労しているが，引き続き進めていただきたい。
					佐藤（和）委員	B	B	B	B														佐藤（和）委員	B	B	B	B	

評価項目	令和3年度業務実績に係る意見等										暫定評価期間業務実績に係る意見等																
	法人自己評価				委員評価						R元評価結果				R2評価結果				法人自己評価				委員評価				
	精神医療C	がんC	本部	総合		精神医療C	がんC	本部	総合	委員評価にあたっての意見・指摘等	精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合		精神医療C	がんC	本部	総合	委員評価にあたっての意見・指摘等
					佐藤（裕）委員	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・医師の学会参加数，発表数が低調だったのは残念である。 【がんセンター】 ・研修医受け入れ数が本年度も低調だった。何らかの方策を講じているのか。 【本部】 ・看護師を３１人採用することができた。													佐藤（裕）委員	B	B	B	B	
					菅原委員	B	B	B	B														菅原委員	B	B	B	B	
					富田委員	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・自己評価通り目標を達成。 【がんセンター】 ・自己評価通り目標を達成。 【本部】 ・自己評価通り目標を達成。													富田委員	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・自己評価通り目標を達成。 【がんセンター】 ・自己評価通り目標を達成。 【本部】 ・自己評価通り目標を達成。
					冨永委員	B	B	B	B														冨永委員	B	B	B	B	
5　災害等への対応	A	A	A	A	石岡委員	A	A	A	A	【精神医療センター】 ・予測と対応が難しい新型コロナウイルス感染症対策に尽力した点は評価できる。 【がんセンター】 ・予測と対応が難しい新型コロナウイルス感染症対策に尽力した点は評価できる。 【本部】 ・予測と対応が難しい新型コロナウイルス感染症対策に尽力した点は評価できる。	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	石岡委員	B	B	B	B	【がんセンター】 ・新型コロナウイルス患者の入院受入で貢献が認められる。3年間を通すとおおむね目標レベルである。
					小野寺委員	A	A	A	A	【精神医療センター】 ・「宮城県立精神医療センター消防計画」に基づき，災害発生に備え，消防訓練を2回実施した。 【がんセンター】 ・防火・防災訓練を実施したほか，感染症対策としての災害対策マニュアルを整備した。 【本部】 ・職員の安否確認システムの活用訓練や無線機の通信訓練を行うなど，災害時における通信方法の確認を行っていた。3月に発生した地震の際には災害対策マニュアルに基づき各病院の被害状況を取りまとめ，宮城県との連絡調整に努めた。														小野寺委員	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・防災マニュアルに基づき，防災対策の一環として，「災害用備蓄食品」や「災害用備蓄医薬品」を適切に管理した。 ・災害派遣精神医療チームを組織し，台風等の大災害時の支援体制を強化した。 【がんセンター】 ・防火・防災訓練を実施したほか，感染症対策としての災害対策マニュアルを整備した。 【本部】 ・職員の安否確認システムの活用訓練や無線機の通信訓練を行うなど，災害時における通信方法の確認を行った。
					郷内委員	A	A	A	A	【精神医療センター】 ・新型コロナウイルス感染症の対応で多くの職員を関連施設に派遣するなどして，地域の感染症対策に貢献した。 【がんセンター】 ・新型コロナウイルス感染症患者の受入や宿泊療養施設等への職員派遣など，宮城県の感染症対策に貢献した。 【本部】 ・災害時の通信システムの確保や3月に発生した地震の際には，県との連絡調整に努めた。														郷内委員	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・自然災害への対応のみならず，新型コロナウイルス感染症対策にも，鋭意取り組んだことは評価できる。 【がんセンター】 ・自然災害への対応のみならず，新型コロナウイルス感染症対策にも，鋭意取り組んだことは評価できる。 【本部】 ・防災訓練の実施，防災無線による通信訓練。
					佐藤（和）委員	A	A	B	A														佐藤（和）委員	A	A	B	A	
					佐藤（裕）委員	A	A	A	A	【全体】 ・コロナ対応に医師，薬剤師，看護師，技師が様々な形で派遣され，大きな役割を果たしたことは高く評価できる。 【がんセンター】 ・緩和ケア病棟にコロナ感染症患者病床10床を設置し，合計1613人の患者を受け入れたことは，高く評価できる。 【本部】 ・2病院からの職員派遣を取り仕切きる重要な役割を果たした。														佐藤（裕）委員	B	B	B	B	【全体】 ・コロナ対応に尽くした。特に令和3年度の医師，薬剤師，看護師，技師の様々な形での派遣は高く評価される。 【がんセンター】 ・令和3年度から緩和ケア病棟にコロナ感染者病床10床を設置して，合計1613人の患者を受け入れたことは極めて高く評価される。
					菅原委員	A	A	A	A														菅原委員	A	A	A	A	【精神医療センター】 ・宮城県における新型コロナへの対策として，急な対応が迫られる中，専門診療を維持しながら，最大限の協力と支援を行ってきたと思われる。 【がんセンター】 ・宮城県における新型コロナへの対策として，急な対応が迫られる中，感染者の受け入れ，ワクチン接種等，最大限の協力と支援を行ってきたと思われる。 【本部】 ・宮城県における新型コロナへの対策として，急な対応が迫られる中，2病院，県と協力し，対応を継続している
					富田委員	A	A	A	A	【精神医療センター】 自己評価通り目標を達成。COVID-19対策に一定の役割を果たしたと思われるが，精神科病院のクラスター対応やCOVID-19陽性の精神疾患罹患者への対応について，宮城県として十分だったかは疑問。宮城県として精神科領域の災害対策の体制整備が急務。 【がんセンター】 自己評価通り目標を達成。 【本部】 自己評価通り目標を達成。														富田委員	B	B	B	B	【精神医療センター】 ・自己評価通り目標を達成。COVID-19対策に一定の役割を果たしたと思われるが，精神科病院のクラスター対応やCOVID-19陽性の精神疾患罹患者への対応について，宮城県として十分だったかは疑問。宮城県として精神科領域の災害対策の体制整備が急務。 【がんセンター】 ・自己評価通り目標を達成。 【本部】 ・自己評価通り目標を達成。
					冨永委員	A	A	A	A	【精神医療センター】 ・令和3年度は，積極的にコロナ患者を受け入れ，また職員を派遣するなど評価されると考える。 【がんセンター】 ・令和3年度は，職員を派遣するなどコロナ対応は評価されると考える。													冨永委員	B	B	B	B	
Ⅱ　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置																											
1　業務運営体制の確立				B	石岡委員				C	・令和4年度第1回評価委員会は公開で行われたが，WEB上では音声が冒頭で聞き取れなかったこと，画面で資料共有がされていないこと，説明が雑であること，延期すべきとの委員の意見が複数会ったにも関わらず無視したことなど，業務運営体制の基本的なところに問題がある。					B			B								石岡委員				C	・R2：種々の会議を重ねて業務運営体制の確立に向けた取組を行った。 ・R3：令和４年度第１回評価委員会は公開で行われたが，WEB上では音声が冒頭で聞き取れなかったこと，画面で資料共有がされていないこと，説明が雑であること，延期すべきとの委員の意見が複数あったにも関わらず無視したことなど，業務運営体制の基本的なところに問題がある。 ・3年間を通じ，業務運営体制の確立に対する努力が行われてきた。今後は民間病院との統合を視野に新たな計画を練り直す必要があろう。
					小野寺委員				B	・2病院では，定期的に運営会議や診療科長会議等を開催し，病院経営に関する情報の共有化や課題検討を行うとともに，患者満足度調査等を実施して業務改善に努めた。 ・本部事務局では，理事会や理事長・院長等会議を主催し，経営状況や計画の進行状況を把握するとともに，病院個別の意見交換会を開催し，経営状況の改善に努めた。また，全職員に経営状況等を周知するため，理事長等が各病院を訪問して説明会を開催し，職員の経営意識向上を図った。														小野寺委員				B	・2病院では，定期的に運営会議や診療科長会議等を開催し，病院経営に関する情報の共有化や課題検討を行うとともに，患者満足度調査等を実施して業務改善に努めた。 ・本部事務局では，理事会や理事長・院長等会議を主催し，経営状況や計画の進行状況を把握するとともに，病院個別の意見交換会を開催し，経営状況の改善に努めた。また，全職員に経営状況等を周知するため，理事長等が各病院を訪問して説明会を開催し，職員の経営意識向上を図った。
					郷内委員				B	・理事会のほか理事長・病院長会議の開催などにより，経営状況や計画の進行状況を管理した。 ・病院ごとの背景にある要因を分析し，意見交換を行い前年度決算をもとに新型コロナウィルス感染症の影響について　全職員に経営状況を周知するなど，職員の参加を促し経営改善に取り組んだ。														郷内委員				B	・業務運営の効率化を図るため，事務部門の組織改編と職制の見直しを行った。 ・理事会のほかに病院運営会議，病院運営委員会，経営・治療戦略会議などを設置して経営改善の情報を共有した。
					佐藤（和）委員				B														佐藤（和）委員				B	
					佐藤（裕）委員				B														佐藤（裕）委員				B	
					菅原委員				B														菅原委員				B	
					富田委員				B	自己評価通り目標を達成。													富田委員				B	・自己評価通り目標を達成。
					冨永委員				B														冨永委員				B	

評価項目	令和3年度業務実績に係る意見等										暫定評価期間業務実績に係る意見等																
	法人自己評価				委員評価						R元評価結果				R2評価結果				法人自己評価				委員評価				
	精神医療C	がんC	本部	総合		精神医療C	がんC	本部	総合	委員評価にあたっての意見・指摘等	精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合		精神医療C	がんC	本部	総合	委員評価にあたっての意見・指摘等
2 収益確保の取組	B	B			石岡委員	B	C			【精神医療センター】 ・目標を達成できなかった項目：外来収益 ・目標を達成できた項目：入院収益，入院患者数，病床稼働率，外来患者数，レセプト査定率 ・特記すべき・項；特別室の収益→目標を達成した項目が多くBとした。 【がんセンター】 ・目標を達成できなかった項目：入院収益，外来収益，入院延べ患者数，病巣稼働率，外来患者数，レセプト査定率， ・目標を達成できた項目：なしか。 ・特記すべき事項；特別室の収益→目標を達成しない項目が多くCとした。	C	A			B	B			B	B			石岡委員	B	C			【精神医療センター】 ・R1：入院，外来共に収益が減少，目標に達しなかった。 ・R2：未収益残高は減少した。外来及び入院患者は目標に届かなかった（Cレベル）。レセプトの査定率は低下した。大規模改修のためか以前から低い病床稼働率は更に低下した。 ・R3:●目標を達成できなかった項目：外来収益，●目標を達成できた項目：入院収益，入院患者数，病床稼働率，外来患者数，レセプト査定率 ●特記すべき事項：特別室の収益→3年間を通しおおむね目標を達成した項目が多くBとした。 【がんセンター】 ・R1：7：1看護体制に戻った（？）。入院，外来共に目標を上回る収益が有り，増収。特別室の改修と室料の値上げなど，収益UPへの努力が認められる。 ・R2：後発医薬品推進やレジメン別化学療法組利益分析などの工夫が見られた。外来患者数は目標に届かなかったが収益は目標を達成した（おそらく高額抗がん薬の影響）。入院患者数は目標を大きく下回った。病床稼働率は以前から低いが目標を下回った。レセプト査定率は低下した。緩和ケア病床稼働率も目標を下回った。 ・R3:●目標を達成できなかった項目：入院収益，外来収益，入院延べ患者数，病巣稼働率，外来患者数，レセプト査定率，●目標を達成できた項目：なしか。 ●特記すべき事項：特別室の収益→3年間を通し目標を達成しない項目が多くCとした。
					小野寺委員	B	B			【精神医療センター】 ・レセプト査定率の削減や未収金縮減に努め，収益向上に向けた積極的な取組を実践した。 【がんセンター】 ・新型コロナウイルス感染症の影響により，外来・入院ともに延べ患者数は目標を下回る水準となったものの，緩和ケア機能の充実を図る等，収益確保に資する取組を行った。												小野寺委員	B	B			【精神医療センター】 ・レセプト査定における返戻率低下や未収金縮減に努め，収益向上に向けた積極的な取組を実践した。 【がんセンター】 ・月1回程度の間隔で，診療報酬委員会を開催し，診療報酬請求時における返戻・査定事例を分析・共有することで，返戻防止に努めた。
					郷内委員	B	B			【精神医療センター】 ・病床稼働率の低下傾向を踏まえ，外来の強化に努め，「レセプト委員会」などを立ち上げレセプト査定率の目標を達成した。 ・入院収益の確保に努めて，目標を達成した。 ・平均在院日数の低減傾向に沿った病床管理が必要である。 【がんセンター】 ・がん遺伝子検査の導入により，先進のがん早期発見に貢献した。 ・保険適用が期待される肺がんゲノム診断外来の提案を行い，基盤整備をした。 ・経営分析システムを活用した。 ・外来は患者数，外来収益ともに目標を下回った。 ・病床稼働率，入院収益ともに目標を下回った。 ・特別室料収益は目標を上回った。 ・平均在院日数が低減傾向にあり，それを踏まえた病床管理が必要。												郷内委員	B	B			【精神医療センター】 ・「レセプト委員会」を設置して，レセプト査定率の削減を実施した。 ・病床稼働率は目標を上回った。 ・入院収益金は目標を上回った。 【がんセンター】 ・経営分析システムを活用し，医療資源投入量の適正化をはかった。
					佐藤（和）委員	B	B																	佐藤（和）委員	B	B			
					佐藤（裕）委員	B	B			【精神医療センター】 ・コロナ禍の下でも頑張ったと評価できる。 【がんセンター】 ・コロナ禍の下において，一定の水準を保ったと評価できる。												佐藤（裕）委員	B	B			【精神医療センター】 ・コロナ禍の下では，頑張ったと評価できる。 【がんセンター】 ・コロナ禍の下では頑張ったと評価できる。
					菅原委員	B	B																菅原委員	B	B			
					富田委員	B	B			【精神医療センター】 ・自己評価通り目標を達成。 【がんセンター】 ・自己評価通り目標を達成。												富田委員	B	B			【精神医療センター】 ・自己評価通り目標を達成。 【がんセンター】 ・自己評価通り目標を達成。
					冨永委員	B	B																冨永委員	B	B			
3 経費節減への取組	B	B	B		石岡委員	B	B	B			B	A	B		B	B	B		B	B	B		石岡委員	B	B	B		【精神医療センター】 ・R1：後発医薬品は積極的に導入している。 ・R2：材料費率は目標に届かなかったが，後発医薬品の品目数は増加した。 【がんセンター】 ・R1：入札方法の見直しによる落札率の低減，新規材料の必要性や価格について綿密な検討を行うなどの努力の成果が認められる。後発医薬品は積極的に導入している。 ・R2：材料費率は目標に届かなかったが，後発医薬品の品目数は増加した。 【本部】 ・R1：経費削減取組における本部の役割が不明瞭。センター毎に行っているのでは？ ・R2：事務機器や事務用品に関する経費削減に取り組んだ（金額は病院と比較すると小さいが）。
					小野寺委員	B	B	B		・一般競争入札やオープンカウンター方式の積極的な導入や複数年契約などの取組による経費削減を行った。 【がんセンター】 ・一般競争入札やオープンカウンター方式の積極的な導入やプロポーザル方式による業者選定・複数年契約などの取組による経費削減を行った。 【本部】 ・大規模病院を2病院運営するスケールメリットを活かした重油やLPG，コピー用紙等の一括入札を行い，経費の削減に取り組んだ。												小野寺委員	B	B	B		【精神医療センター】 ・一般競争入札やオープンカウンター方式の積極的な導入や複数年契約などの取組による経費削減を行った。 【がんセンター】 ・一般競争入札やオープンカウンター方式の積極的な導入やプロポーザル方式による業者選定・複数年契約などの取組による経費削減を行った。 【本部】 ・大規模病院を2病院運営するスケールメリットを活かした重油やLPG，コピー用紙等の一括入札を行い，経費の削減に取り組んだ。
					郷内委員	B	B	B		【精神医療センター】 ・医薬品・診療材料等の効果的な管理，後発医薬品への切り替えを実施した。 ・業務委託の検証を行った。 【がんセンター】 ・医薬品・診療材料などの効果的な管理に努めた。後発医薬品の供給不全があった中で，供給への影響が低いと考えられる。 ・後発医薬品の導入の目標を上回った。 【本部】 ・経費節減についてはコンサルタントの活用や自治体病院協議会のベンチマーク等を用いるなどで，経費節減に努めていただきたい。												郷内委員	B	B	B		【精神医療センター】 ・材料費比率で目標を上回った。 ・一般競争入札，オープンカウンターを導入した。 【がんセンター】 ・一般競争入札，オープンカウンターを導入した。
					佐藤（和）委員	B	B	C																佐藤（和）委員	B	B	B		
					佐藤（裕）委員	B	B	B		【がんセンター】 ・供給不全状況の中でも，後発医薬品の使用が目標値を上回った。 【本部】 ・多様な契約方法の導入，2病院による一括購入という現実的な取組を行った。												佐藤（裕）委員	B	B	B		
					菅原委員	B	B	B																菅原委員	B	B	B		
					富田委員	B	B	B		【精神医療センター】 ・自己評価通り目標を達成。 【がんセンター】 ・自己評価通り目標を達成。 【本部】 ・自己評価通り目標を達成。												富田委員	B	B	B		【精神医療センター】 ・自己評価通り目標を達成。 【がんセンター】 ・自己評価通り目標を達成。 【本部】 ・自己評価通り目標を達成。
					冨永委員	B	B	B																冨永委員	B	B	B		

評価項目	令和3年度業務実績に係る意見等												暫定評価期間業務実績に係る意見等																	
	法人自己評価				委員評価					委員評価にあたっての意見・指摘等	R元評価結果				R2評価結果				法人自己評価				委員評価					委員評価にあたっての意見・指摘等
	精神医療C	がんC	本部	総合		精神医療C	がんC	本部	総合		精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合	精神医療C	がんC	本部	総合		精神医療C	がんC	本部	総合	
Ⅲ 予算，収支計画及び資金計画				B	石岡委員				C	・短期繰入金10億円，コロナ補助金で減額したとはいえ残る繰越欠損金6.17億円：これらはマイナス評価。 ・コロナ補助金によるプラスは病院に対してプラス評価は行うが，当初計画からの改善が無いと考え法人へはプラス評価としない。				B				C				B	石岡委員				C	・R1：経常収支比率は2センターで異なる状況だが，平均すればほぼ目標通り，経常基盤の強化は目標を達成しているが，平成28年度～令和元年度に県からの借り入れが有り(短期借り入れ10億円)，余剰金を当てている状況。 ・R2：経常収支比率は両病院共に僅かに目標を下回った。経営基盤の立て直しに必要な，外来および入院患者数の総数は両病院共に目標を下回った。ただし，がんセンターにおける外来収益額は目標を上回った(おそらくニボルマブなどの高額分子標的治療薬の使用件数の増加による)。宮城県から短期借入金10億円を借り入れた。余剰金の評価項目に関しては，これまで繰り越し欠損金が約10億円発生しており，令和2年度にさらに8800万円上乗せされ繰り越し欠損金総額は11億4300万円と更に増加した。 ・R3：短期繰入金10億円，コロナ補助金で減額したとはいえ残る繰越欠損金6.17億円：これらはマイナス評価。コロナ補助金によるプラスは病院に対してプラス評価は行うが，当初計画からの改善が無いと考え法人へはプラス評価としない。 ・3年間を通じ，2病院は新型コロナ感染症拡大による入院・外来稼働の減少はあったが新型コロナウイルス患者受入（特にがんセンター）による補助金による収益確保に貢献したものの，新型コロナ要因を除いた財務状況の改善は見える形では実現しなかった。
Ⅳ 短期借入金の限度額					小野寺委員				B	・新型コロナウィルス感染症の影響により，患者数が減少したものの，がんセンターにおけるコロナ感染症病棟運用による補助金支給もあり，年度計画を約495百万円上回る実績を計上した。 ・本部勘定として計上されている経費を2病院へ按分するなど，病院毎の本質的な損益状況を「見える化」することについても検討する必要がある。												小野寺委員				B	・2病院ともに，新型コロナウィルス感染症により，患者数の減少等の影響があったものの，未収金回収やレセプト返戻率の低減等の取組みを実践し，おおむね目標を達成した。 ・本部勘定として計上されている経費を2病院へ按分するなど，病院毎の本質的な損益状況を「見える化」することについても検討する必要がある。
Ⅴ 出資等に係る不要財産となることが見込まれる財産の処分に関する計画					郷内委員				B	・経常収支比率は全て目標を上回ったが，医業収支比率はがんと本部は目標を下回った。 ・令和3年度は新型コロナウィルス感染症への対応という特殊環境の中で，目標値を下回った部分に補助金の投入があり，純利益を確保しているが，引き続き経営基盤の立て直しのための対策が必要である。												郷内委員				B	・経常収支比率は100%を維持した。 ・医業収支比率は目標をやや下回った。 ・繰越欠損金が1，143百万円となったところ，令和3年度決算で617百万円に縮減した。
Ⅵ 前記の財産以外の重要な財産を譲渡し，又は担保に供する計画					佐藤（和）委員				B														佐藤（和）委員				B	
Ⅶ 剰余金の使途					佐藤（裕）委員				B	・経常収支比率はコロナ感染患者受け入れに伴う補助金により，目標を達成した。 ・医業収支比率はがんセンターのコロナ感染患者受け入れによる病床減少があったが，まずまずの結果を残している。												佐藤（裕）委員				B	
Ⅷ 積立金の処分に関する計画 ※年度計画に記載なし					菅原委員				B														菅原委員				B	
					富田委員				B	・自己評価通り目標を達成。													富田委員				B	・自己評価通り目標を達成。
					富永委員				B														富永委員				B	
Ⅸ その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置																												
1 人事に関する事項				B	石岡委員				B	・採用試験による雇用と障害者雇用率の100%達成が認められる。				B				B				B	石岡委員				B	・R2：障害者雇用率が増加したことは評価できる。定型業務のアウトソーシングの目的で本部や2病院で有期雇用職員を増員したことは経営効率化に有用であると推測され評価できる。 ・R3：採用試験による雇用と障害者雇用率の100%達成が認められる。 ・3年間を通じて，おおむね目標を達成したと考える。
					小野寺委員				B	・文書整理や執務環境整備等の定型的業務を処理するため，有期雇用職員2人を雇用・活用した。 ・退職者を再雇用し，経営効率の高い業務運営体制の構築に努めた。												小野寺委員				B	・給与計算，文書整理及び執務環境整備等の定型的業務を処理するためのアウトソーシングや有期雇用採用等を活用した。 ・退職者を再雇用し，経営効率の高い業務運営体制の構築に努めた。
					郷内委員				B	・障がい者雇用率を目標達成した。												郷内委員				B	・障碍者雇用率の達成に向けて継続して取り組んだ。 ・有期雇用職員の配置により，文書整理や定型的業務を処理した。
					佐藤（和）委員				B														佐藤（和）委員				B	
					佐藤（裕）委員				B														佐藤（裕）委員				B	
					菅原委員				B														菅原委員				B	
					富田委員				B	・自己評価通り目標を達成。													富田委員				B	・自己評価通り目標を達成。
					富永委員				B														富永委員				B	
2 就労環境の整備				B	石岡委員				C	・職員の健康管理は行われているが，活力有る職場作りの目標値5件に対して提案は0				B				B				B	石岡委員				C	・R2：医師や看護師の業務補助者を配置して各職種の就労環境の改善を図った。終夜保育の継続，院内保育所の委託業者選定，家庭環境への配慮，ハラスメント対策など一定の評価ができる。 ・R3：職員の健康管理は行われているが，活力有る職場作りの目標値5件に対して提案は0（2年連続）。 ・3年間を通じて「活力有る職場づくり」の目標達成率が低いためCとした。
					小野寺委員				B	・各職種の業務検討部会のほか，各種会議等を通じて中期計画・経営改善等に関する情報共有を図った。 ・業務補助者の配置による医療従事者の負担軽減や職員のストレスチェックの実施，院内保育所の充実など，就労環境の整備に努めた。 ・職員の勤務時間の把握や事務省力化に向けた「勤務管理システム」の運用や，時間外勤務の削減・年次有給休暇取得の計画的使用推進に関する通知の発出等，働き方改革に向けた取組を実践した。 ・各種ハラスメントの防止のため，管理者・監督者合同研修において研修を行うなど，ハラスメント行為のない職場環境の構築に努めた。												小野寺委員				B	・各職種の業務検討部会のほか，各種会議等を通じて中期計画・経営改善等に関する情報共有を図った。 ・業務補助者の配置による医療従事者の負担軽減や職員のストレスチェックの実施，院内保育所の充実など，就労環境の整備に努めた。 ・職員の勤務時間の把握や事務省力化に向けた「勤務管理システム」の運用や，時間外勤務の削減・年次有給休暇取得の計画的使用推進に関する通知の発出等，働き方改革に向けた取組を実践した。 ・各種ハラスメントの防止のため，管理者・監督者合同研修において研修を行うなど，ハラスメント行為のない職場環境の構築に努めた。
					郷内委員				B	・職員のメンタルヘルスケアを実施した。 ・医療従事者の負担軽減に努めて，「勤務管理システム」を導入した。 ・ハラスメントに関する研修会の実施など，職員で共有した。												郷内委員				B	・職員のメンタルヘルスケアを進めた。 ・医療事務補助や看護師業務補助の配置をして，医療従事者の負担軽減に努めた。
					佐藤（和）委員				B														佐藤（和）委員				B	
					佐藤（裕）委員				B	・時間外労働の実態について，把握している状況を紹介されたい。												佐藤（裕）委員				B	
					菅原委員				B														菅原委員				B	
					富田委員				B	・自己評価通り目標を達成。													富田委員				B	・自己評価通り目標を達成。
					富永委員				B														富永委員				B	
3 病院の信頼度の向上	B	B			石岡委員	C	B			【精神医療センター】 精神医療センター：新病院建設に関する計画の休止もあり当初の目標は達成できず。 ・病院統合の話題に揺れて，県民の信頼性はやや低下した可能性がある。 【がんセンター】 ・病院統合の話題に揺れて，県民の信頼性はやや低下した可能性がある。	B	A			B	B			B	B			石岡委員	C	C			・R3：精神医療センター：新病院建設に関する計画の休止もあり当初の目標は達成できず。 ・3年間を通じて，2病医院共に病院統合の話題に揺れて，県民の信頼性はやや低下した可能性がある。
					小野寺委員	B	B			【精神医療センター】 ・臨床研究病院，専門医研修施設の指定を継続し，研修施設としての体制を整えた。 【がんセンター】 ・倫理審査委員会を年6回開催し，倫理審査を的確に行うとともに，その結果についてウェブサイト上で公開する等広く職員に周知した。												小野寺委員	B	B			【精神医療センター】 ・臨床研修病院，専門医研修施設の指定を継続し，研修施設としての体制を整えた。 【がんセンター】 ・倫理審査委員会を年6回のピッチで開催し，倫理審査を的確に行うとともに，その結果についてウェブサイト上で公開する等広く職員に周知した。
					郷内委員	B	B			【精神医療センター】 ・病院機能評価の認定は休止の状態が続いている。 ・認定施設等の認定や指定を継続している。 【がんセンター】 ・病院機能評価更新受審に向けて準備をしている。 ・診療報酬算定に必要不可欠な施設認定について，継続のための情報共有をしている。 ・倫理審査委員会の開催により，倫理指針に基づき対応している。												郷内委員	B	B			【精神医療センター】 ・新病院建設の延期のため病院機能評価認定取得の動きは休止している。 ・臨床研修病院，専門医研修施設の指定を継続している。 【がんセンター】 ・病院評価認定の更新に向けて準備を進めている。 ・倫理審査委員会の開催，治験・臨床研究の推進を進めている。
					佐藤（和）委員	B	A																	佐藤（和）委員	B	A			
					佐藤（裕）委員	B	B																	佐藤（裕）委員	B	B			
					菅原委員	B	B																	菅原委員	B	B			
					富田委員	B	B			【精神医療センター】 ・自己評価通り目標を達成。 【がんセンター】 ・自己評価通り目標を達成。												富田委員	B	B			【精神医療センター】 ・自己評価通り目標を達成。 【がんセンター】 ・自己評価通り目標を達成。
					富永委員	B	B																富永委員	B	B			

別紙２－１

令和３年度業務実績に係る全体評価への意見

【石岡副委員長】

○　新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い，令和２年度に引き続き，他の医療機関同様に外来及び入院の稼働が低下した。このため，２病院の純医業収支は目標に達しなかった。これは不可避の自体でありやむを得ないと考える。主にがんセンターにおける新型コロナウイルス感染症病棟の開設と入院患者の受入に伴い，補助金収入が相当額確保され，法人の収支は黒字となったが，この財務状況を当初の中期計画の目標に関連付けて評価することは困難である。一方，医療提供機能に関しては，２病院ともに種々の取組の工夫が見られ，項目毎に目標をやや上回るか（B），やや下回るか（C）のいずれかの評価としたが，総じて目標に達した（B）ものと評価する。

【小野寺委員】

○　新型コロナウイルス感染症の影響による患者の受診控え等により，外来患者・入院患者ともに減少したことによる医業収益の低下については，民間病院・診療所等を含めた医療機関全てに共通している事象であるが，厳しい経営環境下においても，政策医療や高度・専門医療の提供という社会的使命を果たすための医療提供体制を維持していく必要がある。

○　令和３年度の事業実績においては，新型コロナウイルス感染者受入等の地域医療維持の役割を担うことによる補助金入金や各病院における収益確保策（レセプト返戻率の低減，仕入れコストの見直し等）の実践等が寄与し，予算比プラスとなっている一方で，感染症縮小に伴う補助金支給額軽減等の医業収益の下振れリスクが内包していることから，収益力強化に向けて更なる取組を実践していく必要がある。

○　令和４年度以降についても，新型コロナウイルス感染症等の外的要因による業況変動や４病院統合に係る議論加速化等の内的要因による事業方針の変更等が予想されることから，適宜各種目標の設定基準の見直しや収益確保に向けた取組の検討・実践に期待したい。

【郷内委員】

（精神医療センター）

○　県内唯一の「精神科救急入院料算定病棟」の効率的な運用ができた。

○　県内における措置入院患者の半数以上を受け入れている実績

○　児童思春期医療体制の充実をはかり，学校や児童相談所，地域の拠点施設との連携を図ったこと。

○　平均在院日数の短縮，地域移行を進めるために自宅やグループホームなどへの退院の増加がみられたこと。結果的に患者が地域に戻る支援ができている。

以上の点は　精神医療の現状と地域移行が推進され，多様なニーズに対応した病院運営がされたものと高く評価したいと考える。

一方で

○　施設の老朽化からの建て替えの計画が停滞しており，向こう５年は現状で診療することが予想され，利用者には相応の不便となり，診療体制の停滞も予測されるため，一時しのぎのような修繕や改修だけでは不安がある。

○　経営状況については　現状で様々な取組がなされているが，経費節減だけでは越えられない壁があるようにも感じる。収益確保に向けた，診療科目の見直しや不採算部門の縮小なども検討しつつ，病院の存続を図るよう努力をお願いしたい。外部のコンサルタントなども導入してはどうか。

（がんセンター）

○　急速に進展するがん医療の先頭を立って，宮城県のがん医療を牽引される姿に深く敬意を表します。「がん対策推進基本法」が制定されて１６年，「がん対策推進基本計画」に定められた医療機関の責務を忠実に実践されており，県民のがん医療に寄せる期待に応えているものと考える。特に以下の点

①政策医療，高度・専門医療の確実な提供

②地域医療への貢献

③医療に関する調査研究と情報の発信

については，めざましいものがある。

○　東北大学との連携に依存する部分が多く，人材確保や収益確保について打開策が見いだせない状況にも思われる。

○　特に新型コロナウイルス感染症の影響で入院，外来とも収益が下回り，病床の管理が今後見直しを迫られるのではないかと危惧している。

【佐藤（和）委員】

○　業務全般に対する意見としては，両病院ともその診療内容などに関しては，立派に努力していると評価している。ただし，経営に関しては改善の余地があると以前から考えている。現在行われている４病院の統合話も，結局は県立病院の大幅な赤字体質から来ていると考える。

○　現在の診療報酬では，病院経営は（特に公立，公的病院は）赤字がほとんどであり，県立病院機構の両病院だけが，特異的に赤字体質とは考えていません。ただし民間の感覚からすれば，赤字幅（県の運営負担金）をもう少し縮小できるのではないかと考える。

○　例えば，給食，掃除，警備などの外注経費は適正か，人件費（ことに看護師）は適正か，機器類の保守管理料金（おそらく億単位）は適正か，一つの機器は，年間いくら稼いで人件費，消耗費，保守管理費などを差し引くと，差額はいくらか，修繕費用は適切か，等をしっかりと検証し，必要ならば改善していただきたいと考える。政策医療，不採算医療を行っているのだから赤字は仕方ない，という考えもわかるが，これからの４年，あるいは５年間，改善へ向けて意識改革をしていただきたく，強く要望する。

○　厳しいことを言うようだが，そうした経営改善のマインドが，今後引き継がれていくことを期待して記した。

【佐藤（裕）委員】

（コロナ対応が高く評価できること）

○　コロナ禍の下で，両病院の医師，薬剤師，技師等が様々な形で地域のコロナ対応に派遣され大きな役割を果たしたことは高く評価できる。また，がんセンターが緩和ケア病棟にコロナ感染症患者病床１０床を設置し，合計１，６１３名の患者を受け入れたことも病院全体のコロナ対策を並行して実施する必要があるという大きな負担を踏まえると，極めて高く評価できる。

○　さらに，上記のような積極的なコロナ対応をしながらも，両病院においてクラスターの発生が全く無かったことも特筆されるべきである。

（定量的目標値の設定の仕方）

○　評価の前提として年度計画において定量的目標値が多く設定されている。公共性・透明性を要求されている地方独立行政法人の目標値は，それに相応しい合理的なものでなければならない。

○　患者の紹介率，逆紹介率を例にとると，がんセンターは中期計画の数字をそのまま採用しているが，精神医療センターはそうではなく中期計画の数字より下げたものを年度計画の目標値に設定している（「近年の実績を踏まえて設定した」と説明されているが，直近３年間の実績をそのまま踏まえているわけではなさそうである）。

○　このような年度計画における目標値の設定については，どのような基準や要因を基にしてどのように判断して決定しているのか知りたいし，今後もその決定方法とその合理性が説明されるべきである。

【菅原委員】

○　新型コロナの影響が継続する中でも，２病院の専門診療の維持に努力し，宮城県民へ医療提供を行ってきたと考える。今後も，質の高い精神医療及びがん医療の提供の継続を望む。

【富田委員】

○　概ね自己評価通り目標を達成，または，目標を上回る実績を上げていると思われる。宮城県立精神医療センターの施設の計画的な更新・整備については，老朽化が顕著な中，病院建て替えの目途が見えない現状で，目標達成と評価すべきか疑問。

○　調査研究，情報発信の項目に関して具体的な数字の記載があるとよい。

○　がんセンターが高度医療，調査研究で成果をあげており，精神医療センターも連携大学院制度などを活用して，今後より積極的な取組があるとよい。

○　災害等への対応で，　宮城県立精神医療センターはCOVID-19対策に一定の役割を果たしたと思われるが，精神科病院のクラスター対応やCOVID-19陽性の精神疾患罹患者への対応について，宮城県として十分だったかは疑問。今後，宮城県として精神科領域の災害対応の体制構築が急務と思われる。

【冨永委員長】

○　がんセンター，精神医療センターともに，コロナ禍にあっても政策医療という観点から，目標を達成しており，評価されるべきと考える。令和２年度と異なり，コロナ対応にも積極的に参加しており，評価される（ただ，本来そうすべきかと思われるのでBかAか迷うが，本部，がんセンター，精神医療センター全てがコロナ対応に参画した点を評価しAとした)。

別紙２－２

暫定評価期間業務実績に係る全体評価への意見

【石岡副委員長】

○　2020年以降の新型コロナウイルス感染症の蔓延にともない，この暫定期間は，他の医療機関同様に外来及び入院の稼働が低下した。このため，２病院の純医業収支は目標に達しなかった。これは不可避の自体でありやむを得ないと考える。主にがんセンターにおける新型コロナウイルス感染症病棟の開設と入院患者の受入に伴い，補助金収入が相当額確保され，令和2年度以降，法人の収支は黒字となったが，この財務状況を当初の中期計画の目標に関連付けて評価することは困難である。例えば，コロナ対策補助金は病院の社会貢献努力によるものと考えた場合は，病院の評価にプラスとし，法人の評価には加えない，あるいはその逆に法人全体のプラス評価材料とするならば，病院の評価のプラス材料にしないなど，補助金収入の評価を病院と法人とで重み付けをするなどの評価軸が必要であったと考える。一方，医療提供機能に関しては，２病院ともに種々の取組の工夫が見られ，項目毎に目標をやや上回るか（B），やや下回るか（C）のいずれかの評価としたが，総じて目標に達した（B）ものと評価する。なお，事前に設定した評価方法のBとCの線引きが難しい。2病院と法人の評価はほとんどがＢ評価であり，多くの項目で目標をやや上回ったとの自己評価と解釈出来るが，資料を分析すると必ずしも目標に達していない数値項目があるにもかかわらずＢ評価とするなど，自己評価がやや甘い印象を受けた。

　この暫定期間に，２病院の統廃合が水面下で議論されていることが頻回にマスメディアに取り上げられ，県民の大きな関心事であるが，病院機構（法人）や２病院からは全く説明が発信されず，県民，地域住民，患者や家族の不安の解消ができないでいる。当初予定していた中期計画にはこの病院統廃合の記載は無いが，この法人の財源の一端は住民の税金であること，組織上は地方独立行政法人であることを等考慮すると，暫定期間の，特に令和３年度には社会発信に何らかの対応ができたのではないか。

【小野寺委員】

○　新型コロナウイルス感染症の拡大等により医療体制に大きな影響が出ている状況下でも，定量目標・定性目標ともに一定の成果を上げていたことから，全体としては総じて「良好」な取組状況であると評価しているが，今後の考え方として提起したい点は「持続可能な医療提供体制確立に向けた根拠のある数値目標設定」である。

○　定量指標の設定については，これまでの自法人実績だけでなく，他公立病院との比較やベンチマークの活用等により根拠のある数値設定を行う必要がある。さらに，公立病院とはいえ，事業存続のために一定の収益維持，増強に向けた取組も不可欠であることから，状況に応じて民間病院の好事例や実績にも目を向けた相対的指標を取り入れた計画立案を検討してほしい。

【郷内委員】

（精神医療センター）

○　精神科救急医療の提供，地域移行・地域定着支援の実施，児童思春期医療の提供において計画にそった運用ができたものと評価する。年々重要性を増す，地域連携，地域チームケア・

訪問活動やデイケアなど退院後の生活支援に軸足を広げる取組は「地域に帰す」医療として特に重要と思われる。

○　病院の立地から患者の地域性が出ると思われるが，それでなくとも県南域の医療資源の状況を考えると，当センターの果たす役割は極めて大きいと感じる。

○　懸案事項である病院の建て替えについて，速やかに方針を示していただきたい。暫定期間の評価において，病棟の老朽化などは，マイナス要因となる。療養環境の整備はハコモノも大事と考える。

（がんセンター）

○　この３年間をみても，がん療養の環境はゲノムや遺伝子変異治療など大きく様変わりしてきた。また外科分野の医療器具の革新や放射線治療の充実などで，がん患者の救命率やサバイバーシップ支援も大きく充実してきたと高く評価したいと考える。

○　がんセンターが抱える研究部門も大きな成果を出し続けており，都道府県がん拠点病院としての責務を果たしているものと考える。

○　ただ，人材確保特に医師の確保においては，東北大学病院への依存から簡単に抜け出せず，診療体制の充実が困難な場面もあったかと存じる。

○　全人的がん医療を目指すためには，集学的治療から緩和ケア，社会的支援，在宅療養支援まで幅広く見据える必要がある。ますます平均在院日数の短縮が進み，病床稼働率が下がる傾向ならば，病床の管理についても，収益確保の面から検討が必要かと思う。

【佐藤（裕）委員】

（コロナ禍の下で頑張っていること）

○　暫定期間の約３分の２がコロナ禍の下ということになる。がんセンターは平成２９年度頃には収益力が落ちて一時低迷していたが，平成３０年度になってそれを脱し，令和元年度になると更に業績を伸ばしていた時期とコロナ禍が重なってしまった。しかしながら，コロナの影響を受けながらも，一定の入院収益，外来収益を保ち，高度な政策医療を続けていることは高く評価されるべきである。

○　同様に，精神医療センターもコロナ禍の下でも医業収益の目標値を達成して頑張っている。

○　両病院がコロナ対応のために職員派遣や病床提供を行い，積極的なコロナ対応に関わりつつ，クラスターの発生を抑えていることが特筆すべきものであることは令和３年度の全体シートに記載したとおりである。

【菅原委員】

○　コロナ禍において宮城県の新型コロナ対策に協力しながらも，２病院の専門性を維持し，専門的な医療を宮城県民に提供されてきたと考える。

○　専門診療の収益の安定を図るため，専門診療に関わる診療報酬の確実な確保につながる人材育成，体制の強化が望まれる。経費削減の視点だけでなく，専門的な医療を活発に提供することによる収益確保の視点も必要かと考える。

【富田委員】

○　おおむね自己評価通り目標を達成，又は，目標を上回る実績を上げていると思われる。宮城県立精神医療センターの施設の計画的な更新・整備については，老朽化が顕著な中，病院建て替えの目途が見えない現状で，目標達成と評価すべきか疑問

○　がんセンターが高度医療，調査研究で成果をあげており，精神医療センターも連携大学院制度などを活用して，今後より積極的な取組があるとよい。

○　災害等への対応で，　宮城県立精神医療センターはCOVID-19対策に一定の役割を果たしたと思われるが，精神科病院のクラスター対応やCOVID-19陽性の精神疾患罹患者への対応について，宮城県として十分だったかは疑問。今後，宮城県として精神科領域の災害対応の体制構築が急務と思われる。

【冨永委員長】

○　２年間のコロナ禍に見舞われたが，県の政策医療を中心に業務を遂行し，おおよそ目標を達成していると考える。